

追加接種に関するQ & A

Q1 初回接種（1・2回目接種）を受けたのにどうして追加接種（3回目接種）が必要なのですか？

A1 ワクチン接種後の時間の経過とともに感染予防効果や重症化予防効果が徐々に低下することがわかってきました。このため、感染拡大防止及び重症化予防の観点から、初回接種を完了したすべての方に対して、追加接種の機会を提供しています。

Q2 オミクロン株にも追加接種の効果はありますか？

A2 ワクチンのオミクロン株に対する初回接種の発症予防効果は、デルタ株と比較して低下していますが、追加接種により回復することがわかっています。入院予防効果も、デルタ株と比較すると一定程度の低下はありますが、発症予防効果と比較すると保たれており、追加接種で回復することがわかっています。

また、追加接種はオミクロン株「BA.1」だけでなく「BA.2」に対しても同等の効果があることがわかっています。

Q3 オミクロン株は重症化しないのに追加接種する必要はありますか？

A3 オミクロン株は重症化率が低いという報告がありますが、重症化しない訳ではありません。感染が広がれば一定数の方が重症化してしまい、医療体制に負荷がかかることで非コロナ診療にも影響が出る可能性があるため、重症化のリスクを下げるためにも追加接種が必要となります。

Q4 追加接種では、どのワクチンが使用されますか。初回接種とは異なるワクチンを使用（交差接種）しても大丈夫でしょうか。

A4 追加接種に使用するワクチンは、初回接種に用いたワクチンの種類に関わらず、mRNA ワクチン（ファイザー社のワクチンまたは武田/モデルナ社のワクチン）を用いることとされています。3回目にファイザー社のワクチンまたは武田/モデルナ社のワクチンを接種した場合、いずれのワクチンでも接種から1か月後にはスパイクタンパク質に対する抗体価が顕著に上昇していること、ファイザー社のワクチンよりも武田/モデルナ社のワクチンの方が抗体価が高かったことが確認されています。

なお、滋賀県広域ワクチン接種センターでは、武田/モデルナ社のワクチンのみ接種可能です。

Q5 追加接種ではどのような副反応がありますか。2回目より重いのでしょうか。

A5 海外の臨床試験の結果では、ファイザー社のワクチンおよび武田/モデルナ社のワクチンいずれの場合も、2回目の接種後と比較して副反応の発現は概ね同様であると確認されていますが、リンパ節の腫れなどについては、初回接種時と比較して、発現割合が高い傾向にあります。心筋炎の報告頻度は2回目接種後よりも3回目接種後の方が低い傾向がみられています。

Q6 ワクチン接種後の副反応はどこに相談したらよいですか。

A6 滋賀県では、看護師または薬剤師が毎日24時間（土日祝含む）対応する、副反応に関する専用相談窓口を設けています。

電話番号：077-528-3588